

留 学 報 告 書

記入日：2018年6月5日

氏名	氏名：望月 一甫
留学先国	ベトナム
留学先大学・学部 (和文及び英語)	(和) ベトナム国立ハノイ貿易大学(国際経済学部・経済学部) (英) Foreign Trade University
留学期間	2017年8月～2018年1月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3年生(留学先大学で在籍した学年)
帰国年月日	2018年1月29日
明治大学卒業予定年月	2019年3月

留学費用項目	現地通貨(ベトナムドン)	円	備考
授業料	0	0円	学部間協定校留学
宿舍費	0	0円	文科省大学の世界展開力強化事業による全額補助
食費	18,000,000VND	90,000円	月1.5万×6か月
図書費	0	0円	教科書は各自PDFでダウンロードします
学用品費	3,000,000VND	15,000円	手続き諸費用(現地回収)など
教養娯楽費	3,000,000VND	15,000円	留学生同士の交流プログラムなど
被服費	0	0円	特になし
医療費	0	0円	保険を使って現地の医療機関を受診しました
保険費	10,070,000VND	50,370円	明治大学で指定されたもの(タイプB)
渡航旅費	10,820,000VND	54,100円	日本航空往復チケット
雑費	4,000,000VND	20,000円	携帯電話本体、SIMカード1年分、入国VISA
その他(学生定期券)	600,000VND	3,000円	路線バス、空港バス(月500円×6か月)
その他(アパート関連)	18,000,000VND	90,000円	電気代、不動産仲介料など
その他()		円	
合計	67,490,000VND	337,470円	¥1=200VND

渡航関連	
渡航経路	航空機→路線バス
渡航費用	チケットの種類 日本航空往復チケット 往路 復路 合計 ￥54,100
渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。	
日本航空ホームページ ベトナム・スケッチ（日本人駐在員向けの現地情報雑誌。地球の歩き方よりも重宝していました。） ベトナム・バンブー（同じく日本人駐在員向けの現地情報雑誌）	
滞在形態関連	
種類（留学中の滞在先）例：アパート、大学の宿舎など	
サービスアパート	
部屋の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 個室 OR <input type="checkbox"/> 相部屋（同居人数： ）
住居を探した方法	
文科省大学の世界展開力強化事業による家賃全額補助の対象上、明治大学名義でアパートを契約する必要がありました。そのため、学部事務室の担当職員の方が事前に日系の不動産会社2社から複数の物件の情報を得て、その情報をもとに自分が最適だと思った物件を選び、その後大学名義でその物件を抑えてもらいました。物件選びの際は、大学までの通学時間や住居付近の治安などについて、複数のベトナム人の友人に相談しました。	
感想（滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス）	
日系の不動産会社の仲介だったため、入退居の手続きやトラブルの対応には、迅速かつ丁寧に対応してもらえました。ベトナムの国立大学全般に言えますが、授業を行う建物が整備されていても寮は環境が良いとは言い難いです。ローカル向けか否かや場所にもよりますが、月2万程度でアパートの個室を借りられるので、長期間の滞在では学外のアパートを借りることを強くおすすめします。電気や水道は、大使館など重要度が高い建物が点在している地域ほどしっかり供給されていると思います。そのような理由から、ハノイで日本人が住むエリアは主に4地域に固まっています。	
現地情報	
現地で病院にかかったことはありますか？大学内の医務室/診療所や附属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか？	
<input type="checkbox"/> 利用する機会がなかった <input checked="" type="checkbox"/> 利用した：Family Medical Practice という病院に行きました。ベトナム全土にある病院で、診察は丁寧、日本人の通訳の方もいます。	
学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。	
大学内に国際部という組織がありますが、何をするにも対応が遅いのでほとんど頼りになりません。何か困ったときは、ベトナム人や共に勉強している留学生の友達に相談していました。	
現地の危機地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？その際どのように対処しましたか？	

大使館に在留届を提出しました。定期的に、大使館から危険喚起のメールが配信されます。盗難や犯罪に巻き込まれることはありませんでした。(友人はカメラを拘られたそうですが)

パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか?
例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは、WiFi接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。

アパートのWiFiが問題なく使用できたので、不自由なことはありませんでした。カフェや路線バスの車内、ショッピングセンターなど、ハノイのいたるところでWiFiが利用できます。ベトナム人の友人に付き添ってもらい、簡素な携帯電話を購入しました。1年分に相当する通話料込みで、機種代は2,000円程度でした。ただし、2018年までにベトナムの携帯電話の番号は10桁に統一される予定なので、これから携帯電話を購入する場合は19年以降も使える番号か確認する必要があります。

現地での資金調達はどのように行いましたか?
例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録しないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。

ベトナムは日本に比べて物価が安く、かつ6か月というあまり長くない滞在だったため銀行口座等は開設せず、ある程度の現金を日本から持参しました。現地ではアルバイトもしていたため、お金がなくなるという心配はありませんでした。

現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

常備薬、マスク(日本の白いマスクは意外と手に入りにくいです)

進路について

進路

就職 進学 未定 その他:

進路決定の際に参考にした資料、図書、期間など

就職活動報告書

就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

商用車メーカー(現時点での内定先)
日本が誇れる一番の技術は自動車であり、なおかつグローバルに働け、社会貢献ができるから。
商用車の方が、自動車メーカーよりも安定しているから。

就職活動中・終了時に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書きください。
例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。

3月1日就職活動解禁で1月末に帰国しましたが、十分間に合います。(2020卒以降も採用活動のスピードは実質早くなると思うので断言はできませんが。)

進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書きください。

その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書きください。

その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書きください。

その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書きください。

その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書きください。

学習についてのレポート（履修した科目ごとに記入してください）	
留学先で取得した単位数合計（科目数）	本学で認定された単位数合計（科目数） ※該当項目にチェックのうえ、記入してください。
12 単位（4 科目）	<input type="checkbox"/> 単位（ 科目） <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません（理由：留学前に単位が足りていたから）
以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスを含めてお書きください。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	

履修した授業科目名（留学先大学言語）	Development Economics
履修した授業科目名（日本語）	経済発展論
科目設置学部	国際経済学部
履修期間	2017 年 8 月～2017 年 10 月
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定（本学で認定された単位数を書いてください）
授業形態（チュートリアル、講義形式等）	講義
授業時間数	1 週間に 145 分が 2 回
担当教員	Vu Hoang Nam
授業内容	様々な国の様々な要素のデータから、経済に関する基本用語の理解や貧富の格差などの社会問題を論理的に考える授業。
試験・課題など	中間＝授業の内容を踏まえて、4～5 人グループでプレゼン。ベトナムと日本の水産加工品の輸出入に関して、これまでの歴史とこれからの提言を踏まえてプレゼンした。 期末＝テスト。4 択問題と記述問題。4 択は、授業の復習をしていれば確実に解けるが、日本よりも圧倒的に覚えるべき量が多いので、相当な準備が必要。（プレゼン 500 ページ分以上）
感想を自由記入	教授は、日本の大学院で勉強した経験があったため、授業内でも日本に関する真面目な話から面白い話までよく話していて、そのたびに意見を求められた（笑）。後期の授業につながる知識を得ることができた。

履修した授業科目名（留学先大学言語）	Economic Globalization
履修した授業科目名（日本語）	経済のグローバル化
科目設置学部	国際経済学部
履修期間	2017 年 10 月～2018 年 1 月
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定（本学で認定された単位数を書いてください）
授業形態（チュートリアル、講義形式等）	講義
授業時間数	1 週間に 145 分が 2 回
担当教員	忘れました（若い女性）
授業内容	国際経済のけん引役である WTO や RTA への理解を深めることで、より多角的に世界経済をとらえる授業。

試験・課題など	中間＝4～5人グループで授業の内容を踏まえてプレゼン。この授業が行われていた時期に、ベトナム中部ダナンで TPP が行われていたため、TPP や議長国ベトナムの役割などについて発表した。 期末＝テスト。4 択式と論述問題。難しくはないが、覚えるべき内容が多かった。
感想を自由記入	暗記すべき内容が非常に多いが、頭で考えることはない。あまり面白くなかった。
履修した授業科目名(留学先大学言語)	Growth and Development
履修した授業科目名(日本語)	経済成長と発展
科目設置学部	国際経済学部
履修期間	2017年8月～2017年10月
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いてください)
授業形態(チュートリアル、講義形式等)	講義
授業時間数	1週間に145分が2回
担当教員	Truong Xuan Pham
授業内容	複数の経済発展モデルを示したうえで、そのモデルと現在のベトナムの具体的な経済データを重ね、ベトナム経済をより深く理解するという授業。
試験・課題など	中間＝留学生(イラン、フランス、韓国)の学生とグループを組んでプレゼン。国連のSDGsに対する各国の取り組みから、ベトナムに対して環境保護に関する取り組みの提案を行った。 期末＝テスト。4択と論述だが、事前に大半の問題に関して告知がされた。
感想を自由記入	この授業は、生徒不足により当初開講されない予定だった。しかし、経済学に関する専門知識に乏しいことを大学に相談したところ、学部の中で初歩的レベルであるこの授業が急きょ再開することになった。そのため、学生はベトナム人、留学生合わせてわずか8人だった。教授と生徒間の距離が非常に近く、わからないことにも真摯に対応してくれた。大都市であるハノイ・ホーチミンだけでなく、ベトナムの農村の経済状況や今後のベトナム経済の行方など、日本にいただけではわからないベトナムの今を肌を感じることができる授業だった。
履修した授業科目名(留学先大学言語)	International Economics
履修した授業科目名(日本語)	国際経済論
科目設置学部	経済学部
履修期間	2017年10月～2018年1月
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いてください)
授業形態(チュートリアル、講義形式等)	講義

授業時間数	1週間に145分が2回
担当教員	忘れた(年配の女性)
授業内容	比較優位説、関税と補助金のとらえ方などについて。アメリカやEUなどのいくつかのモデルを示し、そこから得られる結果を分析することが主な内容。ほぼ毎回、授業の終わり近くになると課題を出し、その課題を提出できなければ、教室を出ることができない。
試験・課題など	中間、期末=テスト1本勝負。4択式だが、ほとんどの問題で計算を要するので、実質記述問題である。内容はかなり高度だが、この授業のみ一部のベトナム人学生の間で過去問が出回っていたため、ある意味情報戦でもあった。
感想を自由記入	この授業は、本当に難しかった。グラフや計算など知識だけでは太刀打ちできない、より深い考え方を要する授業内容で、数字を使うことが嫌いな人はすぐについていけなくなる。教科書はあるものの、そのすべてを教えてくれるわけではない。毎回、次の授業ではここまで進むということを目星つけて予習しないと、授業後の課題や今後の授業の理解度に影響を与えることは明らかであり、この授業の予習のためだけに週末の時間がすべてとられるなど非常にハードだったが、やりがいはあった。

留学に関するタイムチャート

留学までの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関して発生した事項を記入してください。（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2016年 1月～3月	2015年9月：所属学部プログラムで2週間ベトナム・ハノイを訪問する。 ベトナムへの長期留学を意識し始める。 16年2月：IELTSで当時の明治大学の学内協定校留学の採用基準を超える。（この時、まだ学部間で協定は結ばれていなかった） 16年3月：山中湖セミナーハウスでの英会話合宿に参加し、学部や学年を超えて、学生の意識の高さを感じる。
4月～7月	国際協力人材育成プログラム「ソリューションアプローチA」の履修を通じて、新興国事情に関する知識や英語運用能力を高める。
8月～9月	引き続き英語の勉強をする。
10月～12月	国際協力人材育成プログラム「グローバル共通教養総論」の履修。 所属学部がハノイ貿易大学と協定を結んだことを知る。
2017年 1月～3月	2～3月：文科省大学の世界展開事業「インドシナ経済回廊研修プログラム」で、ベトナムのハノイ・ホーチミンを含む新興国3か国5都市を訪問。国連が定義する持続可能な観光開発に関する現地調査を行い、ハノイのUNHOUSEにて、英語で成果報告会を行う。 並行して、学部間協定校留学の出願手続きを学部事務室を通して行う。
4月～7月	協定校留学採用の通知。 各種手続きを行う。
8月～9月	8月2日：渡航 8月3日：すべての留学生に対してのオリエンテーション 8月7日：1学期開始 9月：5日間のホームステイ（ハイフォン）
10月～12月	10月中旬：1学期前期の期末試験 試験後、2学期開始。 12月～1月：JASSO奨学金の手続き・採用通知 2018年1月上旬：1学期後期の試験

留学体験記

<p>留学しようと決めた理由</p>	<p>留学をしてまで勉強したいと思える分野を明確にできたからです。大学入学当初は、長期留学をしたいと考えたことは一度もありませんでした。しかし、1年時の夏に学部プログラムでベトナムへ渡航したことをきっかけに、東南アジア諸国の歴史や経済に興味を持ち、留学先での目標を明確にすることができました。また、長期留学を始めるまでの間に、様々な出会いやつながりがあったことも、留学の決断を後押しすることになりました。自ら留学のきっかけを作りつつ、本当に人脈にも恵まれていました。</p>
<p>留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備</p>	<p>語学力や、明治大学での専攻とは異なる経済学の基礎知識などの学習面での能力もそうですが、体力をつけておくことが大切だと思いました。いざ留学が決まっても、渡航するまでは留学に対するイメージはあやふやなままなので、一度長期留学を経験しない限り、日本で何を準備しておくことが大切なのかを考えることや、それを実行することは簡単でないと思います。いざ留学を始めると、授業の課題や語学の勉強（特にベトナム語）、事務手続き、交友関係など、予想以上にやることが多いというケースがほとんどだと思います。また、6か月という短い期間を充実させるために、自分にできることはあるのではないかと常に考えていたため、自然と体に負荷をかけてしまっていました。その結果、日本ではほとんど体調を崩さないにも関わらず、何度か体調を崩し、周りの方々にも迷惑をかけてしまいました。留学中は日本での環境と大きく異なるため、それに対応できるだけの体力をつけられれば、より充実した留学生活を送ることができると思います。</p>
<p>この留学先を選んだ理由</p>	<p>明治大学では学ぶことができない、経済発展著しい東南アジアの国の経済について興味があったからです。また、ハノイは過去2回の渡航である程度のことを知っており、かつ2年前に1年間貿易大学に留学していた先輩がゼミにいたり、ゼミの担当教授がハノイの別の大学で客員教授をしていることから、個人的にハノイとのつながりが非常に強かったからです。渡航前に多くのベトナム人の大学生と接してきた中で、ベトナム人が非常に勤勉だということも知っていたので、学習環境という面でも切磋琢磨できる部分があると考えました。実際に、そのイメージは間違っていないでした。</p>
<p>大学・学生の雰囲気</p>	<p>とても明るい生徒が多く、大学は常に活気にあふれています。貿易大学には数多くのクラブがあり、平日休日関係なく、楽器の演奏やビデオ撮影などのパフォーマンスを行っている学生が多くいました。授業では気軽に声をかけてくれる学生も多く、学外でもカフェやレストランに一緒に行ったりなど、すぐに親しくなることができました。貿易大学は、他のハノイの大学に比べて規模が小さいためキャンパスは小さめですが、カフェテリアや自習室などを留学生が使うことができ、場所によってはWIFIも使えるため、設備は整っていると思いました。</p>

寮の雰囲気	寮ではなく、一般の日本人向けサービスアパートに住んだので、そのことについて書きます。アパートの住民（日系企業の駐在員の方など）同士は顔見知り程度で、住居は一人の時間を確保するためという要素が強かったです。週3回、専属のハウスキーパーさんが部屋を掃除してくれます。また、住んでいる地域でイベントがある際には、国籍かわからず招待してもらえます。例えば中秋の名月には、周辺の道路を閉鎖してステージイベントを行い、付近に住むベトナム人の住民の方々と交流したり、お菓子をもらったりしました。
交友関係	3年前の渡航からの友達、学部交流プログラムを通じて日本で知り合った友達など、国家大学、貿易大学、ハノイ大学（いずれも文系最高峰の大学）の学生を中心に、渡航前から多くのベトナム人の友人がいたため、現地滞在中は常に相談できる相手が近くにおり、本当に頼りになりました。中でも、ハイフォンという都市での3泊4日のホームステイは、今までのベトナム滞在のなかで一番ベトナム人のおもてなしを強く感じることができ、忘れられない思い出です。日本の正月休みなどに、日本に留学しているベトナム人の友達とハノイで再会するなど、旧友とのつながりを認識できたこともうれしかったです。
学習内容・勉強について	経済学を専攻しました。2年前の渡航を機に、世界経済のけん引役となるベトナムをはじめとする新興国経済に興味を持ったからです。授業の本登録前に、一週間程度好きな授業を自由に聞くことができる期間があるので、その際に自分の学びたいことと授業の内容がマッチしているか考えることができます。また、貿易大学の授業は学生同士の共同作業が不可欠です。授業時間外にも共に課題に取り組むことで、多くのベトナム人学生とつながることができます。この授業スタイルは、家族・親戚や友達とのつながりが強いベトナム文化を反映しているものだと思います。貿易大学の授業は、1学期が前期と後期に分かれているため、実質4学期制です。中間・期末試験の絶対数が多くなり負担は大きいですが、その分授業の種類を増やすことができるので、より多くのことを学ぶチャンスがあると思います。
課題・試験について	課題量は、選択した授業によると思います。授業の時間数は同じでも、前期と後期では後期の方が圧倒的に負担が大きかったです。試験やプレゼン前は、日本と同様に時間的余裕がありません。特にグループで活動する課題は、ベトナムの文化・習慣的に締め切りぎりぎりにならないと課題に向けて準備しない傾向が強くなるので、留学生が他のベトナム人を引っ張っていく必要があります。ただし、一度課題に取り組むと優秀で勤勉なベトナム人は相当な作品を作るので、当たり前のことですが、時間をかけてでも最後まで気を抜かず自分の納得いく課題やプレゼンの出来を目指すことが重要であると思います。
大学外の活動について	3年前初めてベトナムへ渡航した際に、現地の大学で日本語を懸命に学ぶ学生たちに心を打たれたこともあり、留学前から日本語教師として働きたいという願望がありました。幸い、9月末から貿易大学近くの日本語センターで働くことができ、働き始めてから1か月で自らが担当するクラスを持つことができました。仕事を通じて、ベトナム人の起業家やハノイ各地の大学に通う学生など、さまざまなベトナム人の方々と日系企業の方々とかわる機会がありました。ここに書ききれないほど

	<p>の大変なこともありましたが、結果的によい経験になったと思います。また、大学の長期休み中には、航空機でベトナム中部に出張する機会もいただきました。それとは別に、家庭教師をしているベトナム人の友人の付き添いで、日本語のボランティアとしても活動し、ハノイ各地に住む各家庭の家々を訪問したりしていました。休日は、旅行では絶対に行かないような郊外地域に行ったり、アパート近くの湖でランニングしたりと、できるだけ外に出るようにしていました。</p>
<p>ある平日のスケジュール</p>	<p>6時：起床、6時45分～11時45分：授業、12～13時：昼食、13時～16時：カフェで自習、16時～19時：アルバイト、19時～22時：同僚と飲み、0時：就寝</p>
<p>ある休日のスケジュール</p>	<p>8時：起床、10時～12時：湖でランニング、12時～13時：昼食、14時～16時：友人とカフェ、18時～22時：子供向け日本語ボランティアと家族の方との会食、0時：就寝</p>
<p>留学を志す人へ 「これを知っておいて欲しい」と思うこと</p>	<p>一度留学に興味を持ったら、迷わずチャンスをつかもうとすることが大切だと思います。明治大学はさまざまな国や学校と協定を結んでおり、留学に適した環境にいます。留学してみたいが、留学することが本当に役に立つのかと考えている人もいます。しかし、目まぐるしく変化を続ける今の世界で、今すぐに役に立つことは、すぐに役に立たなくなると思います。逆に、今後のさまざまな場面のなかで、大学時代の留学が役に立つこともあるでしょう。留学に関しても、より幅広い視点で見つめなおせば、留学に関する捉え方を変えることにつながると思います。</p>

アルバイト先にて



サパの風景



ホイアンの灯籠流し



ハイバン山の山頂